

◆ 有識者ダイアログ

当社では、2018年より社外有識者とのダイアログを実施しています。ダイアログでは、サステナビリティへの取り組みについて忌憚のないご意見や今後に向けたアドバイスをいただき、活動に反映しています。2024年は有識者の皆さまと直接お会いして実施しました。

平時にこそリスクに備えておくことが大切です

ロッテ ミライチャレンジ2048の策定プロセスを伺いましたが、若手から中堅の社員が主体的にビジョンや目標を定められたのは素晴らしいと思います。ぜひ議論の過程で上がった話題についても経営陣に伝えるようにしてほしいです。私は他社で社外取締役をしていますが、役員は現場の声をもっと聞きたいと思っています。ロッテのサステナビリティブックは、正直に様々なストーリーが記載されている点がとてもよいと思います。よりナラティブに伝わる開示を目指して、社会ニーズとの整合や、取り組みの受益側のストーリーをインタビューなどで掲載することを検討してみてください。例えば、カカオ豆生産地で様々な取り組みを進められていますが、それによって現地がどう変わったかなどを現地の方に語ってみたいですね。

サプライチェーンのリスクは今後ますます増えると思います。多種多様な原材料を使用されているので、リスクの高い重要原材料を絞って取り組みを深めることはもちろん重要ですが、それ以外の原材料についても幅広くリスクの整理をすることをおすすめします。何かあってからではなく、平時にこそリスクに備えておくことが大切です。お菓子やアイスは平時でも有事でも人々の心の幸福や安らぎに大いに貢献しているので、このような役割を強調すべきだと思っています。さらに、地球で起きている様々な課題を多くの人々と一緒に乗り越えていく際に、お菓子やアイスはよいコミュニケーションツールになると思います。



赤羽真紀子氏

CSRアジア株式会社 日本代表

早稲田大学で政治学と生物学を修める。様々な業種の多国籍企業のCSR担当として通算10年以上の経験を有し、スターバックスコーヒージャパン(株)、(株)セールスフォース・ドットコム、日興アセットマネジメント(株)の各社で関連部署の立ち上げを手がける。2010年より現職。

社外からの評価を高めることは、携わる方のエンゲージメントを高める上でも重要です

サステナビリティビジョンの検討過程で実施されたワークショップでの議論をグラフィックレコーディングで記録されており、視覚的にも分かりやすくよいと思いました。どのような想いがサステナビリティビジョンに込められているかがとてもよく理解できました。これまでも進められてきた「噛むこと」の普及については、ロッテ社内での実践率が気になりました。例えば、ロッテの方々、ガムを噛んでいるおかげで心身によい影響がみられるなどのデータがあると説得力がありますし、より分かりやすく伝わって面白いかもしれませんね。

FLW(食品ロスおよび食品廃棄物)削減において、ステークホルダーとの連携を掲げられていることは大変心強い取り組みです。特にサプライチェーン下流の巻き込みは難しい面も多いかと思いますが、ぜひ積極的に主導していただきたいです。応援しています。また、賞味期限が目安であることの表示もぜひ検討してください。消費者庁も「おいしいめやす」という愛称を推奨されています。パッケージに記載できる内容には限りもありませんが、大手食品メーカーとして取り組みを広めてほしいと思います。

食育が従業員のエンゲージメントにつながった事例についてもよく分かりました。せっかくのよい取り組みですので、積極的に社外の様々な顕彰制度へ応募してみてください。社外からの評価を高めることは、携わる方のエンゲージメントを高める上でも重要です。



井出留美氏

ジャーナリスト、食品ロス問題専門家
令和2年度食品ロス削減推進大賞消費者庁長官賞受賞者

奈良女子大学食物学科卒、博士(栄養学/女子栄養大学大学院)、修士(農学/東京大学大学院農学生命科学研究科)。ライオン(株)、JICA海外協力隊を経て日本ケロッグ(株)広報室長等歴任。東日本大震災の際に食料廃棄に憤りを覚え、(株)office 3.11設立。日本初のフードバンクの広報を務め、2016年には食品ロス削減推進法成立のきっかけを作った。著書に『賞味期限のウソ』『食料危機』『あるものでまかなう生活』『捨てないパン屋の挑戦』(第68回青少年読書感想文全国コンクール課題図書)他。

◆ 有識者ダイアログ

女性のエンパワーメント原則 (WEPs) を活用し、 客観的に分析してください

ロETTE ミライチャレンジ2048は、部門横断的に課題解決に取り組む目標となっていて素晴らしいですね。複雑に絡み合う社会課題に対して、多様な知識や経験を持った人財が部門を横断して話し合いながら取り組むことが重要です。サステナビリティビジョンで掲げられた提供価値、環境、働き方の3要素は独立しているものではなく、つながっています。気候変動や少子高齢化、人口減少などのメガトレンドと合わせて3要素を統合的なストーリーで語れるようになると、具体性が増して社内外にも伝わりやすいと思います。

若い世代は自身の価値観と会社のパーパスが合致しているかをとても重要視しているようです。また、評価が適切にされているかについても敏感です。「働きやすさ」と「働きがい」の両立を目指す過程で、評価プロセスの透明性が大切な視点になっています。

女性管理職比率の目標を後ろ倒しにされましたが、今後、どのように取り組むかに注目しています。女性のエンパワーメント原則 (WEPs) を活用し、取り組みが進んでいない要因をデータに基づいて客観的に分析してください。構造的な問題が浮き彫りになるはず。国連ビジネスと人権作業部会が昨年実施した訪日調査の報告書は、リスク集団の一つとして女性を挙げ、男女間賃金格差、性別による職域・雇用形態の偏り、経営層におけるジェンダーギャップ等を厳しく指摘しました。人権問題でもあるという認識が必要です。



大崎麻子氏

(特活) Gender Action Platform理事

米国コロンビア大学国際関係修士 (国際人権専攻)。国連でジェンダー平等と女性のエンパワーメントを担当し、女性の教育、雇用・起業、政治参加等を手がける。現在は、国際と国内、公共と民間をつなぐ専門家として活動中。内閣府男女共同参画会議専門委員、国連女性の地位委員会 (CSW) 日本代表、ISO53800ジェンダー平等ガイドライン国際ワーキンググループ日本代表エキスパート等を務める。「女性のエンパワーメント原則 (WEPs)」日本版ハンドブックを企画・制作。

海外の基準やルールに受動的に対応するばかりでなく、 主体的に議論を先導してほしいと思っています

長期的な視点で新しい目標ロETTE ミライチャレンジ2048を設定されたことはとてもよいと思います。社会や事業の変化に合わせて、定期的に目標をアップデートしていく必要があります。今後もサステナビリティについて取り組むテーマは増えると予想されるので、アンテナを張り続けて対応を準備してください。また、目標検討の過程でシナリオプランニングを活用されたことは画期的で素晴らしいことだと思います。

ただし、容器包装に使用する石油由来使い捨てプラスチックをゼロにするという目標が2048年なのは遅いと感じます。簡単でないことは理解しますが、今後目標を見直す中で、より野心的な目標を掲げて前倒しで進められることを期待しています。リサイクルについては自治体とも協力して進めてはいかがでしょうか。自治体と企業の連携が進められると、サーキュラーエコノミーの実現がますます加速すると思います。

また、欧州を中心に海外では、サプライチェーンにおける森林破壊防止や人権配慮に関する規制や開示の枠組みが先行して議論されています。この流れは、いずれ日本にも波及してくると思いますが、海外の基準やルールに受動的に対応するばかりでなく、日本を中心としたアジアが主体的に議論を先導してほしいと思っています。ぜひ、ロETTEがその議論に積極的に参加されることを期待しています。



蟹江憲史氏

慶應義塾大学大学院
政策・メディア研究科 教授

同大学SFC研究所xSDG・ラボ代表。北九州市立大学助教授、東京工業大学大学院 社会理工学研究科准教授を経て、2015年より現職。2023年Global Sustainable Development Report執筆の15人の独立科学者の一人に国連事務総長から選出された。専門は国際関係論、サステナビリティ学、地球システム・ガバナンス。SDGs研究の第一人者であり、研究と実践の両立を図っている。博士 (政策・メディア)。

◆ 有識者ダイアログ

「未来のため」であることをしっかりと説明して伝えることで、
消費者の理解は得られると思います

「噛むこと」を中心にCSV(共通価値の創造)の取り組みを進められていることは素晴らしいと思います。私はキシリトールガムについてもさらに広めてほしいと考えています。例えば、災害などで水が不足している状況でも有用ですし、子どもの口腔ケアの視点では子ども食堂やフードバンクへの寄贈でも重宝されます。

ロッテは色々な取り組みをされていますが、生活者の側からすると発信が十分に届いていないと感じています。サステナビリティデータブックのように科学的根拠を示しながら誠実に伝え、きちんと伝わり生活者の行動変容が起きると思います。また、今後、サステナビリティの活動でどうしてもコスト転嫁せざるを得ない場合に、「未来のため」であることをしっかりと説明して伝えることで、消費者の理解は得られると思いますので、自信をもって推進してください。

女性管理職比率の目標は低いと感じました。一方で、男性育休の取得は進んでいると思います。それぞれの家庭ごとで育休が必要なタイミングは異なりますので、より柔軟に取得できるとよいですね。家庭内も併せてジェンダーギャップを解消していく必要があり、女性と男性の双方の困りごとについてヒアリングしながら進めてほしいと思います。また、LGBTQ+などマイノリティへの取り組みは大切です。過剰な配慮はかえってよくない場合があるので、彼らに寄り添うALLY(アライ:LGBTQ+を理解し、支援する人)の取り組みが広がるとよいと思います。



郷野智砂子氏

一般社団法人全国消費者団体連絡会 事務局長

大学卒業後、こども文化センターで学童保育指導員として9年間務める。その後、育児と介護をしながら小学校での教育ボランティアや生活協同組合の活動に参加する。生活協同組合ユーコープ理事、神奈川県生活協同組合連合会常務理事を経て現在は一般社団法人全国消費者団体連絡会の事務局長を務める。内閣府、消費者庁、厚生労働省、農林水産省の審議会委員などを務め、消費者の視点で意見発信している。

取り組む社会課題について高い解像度で社内の認識を合わせることで、
個々の施策の社会的インパクトを最大化することができます

とてもロッチェらしさの詰め込まれたサステナビリティビジョンやロッチェ ミライチャレンジ2048だと感じました。プロジェクト参加者から出された「ロッテ商品を選ぶと自然と環境配慮できる」というアイデア・考え方は、まさにメーカーに求められる重要な役割だと思いますので、ぜひ実現してください。また、設定された目標を拝見すると、社内を巻き込んで推進するために理想と現実のバランスを丁寧に議論されたことが分かります。各マテリアリティで解決しようとしている社会課題をさらに具体的かつ明確にして社内で認識合わせをすることで、今後の個々の施策がより軸を持ち社会的インパクトを最大化できると思います。

人権に関する取り組みは着実に進歩していると感じました。広報・マーケティングにおける人権面のガイドラインを制定され、パッケージやSNSの確認をされていることは素晴らしい試みです。今後へのアドバイスとしては、幅広いバックグラウンドを持つ方が多様な視点で確認を行うことで、よりリスクの低減が図れると思います。また、カカオ豆生産地の抱える課題への対応を進めるにあたって、現地を視察して弱い立場にある農家の方々の声を直接聞かれたことは大切なことです。ロッテが注力されている児童労働の課題と並行して、農家の貧困や森林破壊など複雑に関係する他の課題についても統合的に取り組むことで課題の根本からの解決につながると思います。また、欧州ルール動向等を踏まえると現地で進行するプログラムが適切に実施されているかを第三者の視点で確認することも重要になってきます。



潮崎真惟子氏

認定NPO法人フェアトレード・ラベル・ジャパン 事務局長

デロイトトーマツ コンサルティングを経てオウルズコンサルティンググループにてマネジャーを務める。コンサルタントとしては人権デュー・ディリジェンス、サステナビリティ戦略、政策立案などを多数担当。「児童労働白書2020ービジネスと児童労働ー」執筆。一橋大学経済学部卒、同大学大学院経済学研究科修士(地域開発)。人権・労働分野の国際規格SA8000の監査人コース修了。